

1. 新型コロナウイルス感染症について

5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類に引き下げられました。それに伴い、感染者や接触者に対する行動制限も無くなり、感染対策は一人一人の判断のもと行うこととされています。

しかし、5類に引き下げられたと言っても、コロナウイルス感染症が無くなったわけではありません。

各学校でも、「登校時の検温確認は行わない」「マスク着用を求めない」「濃厚接触者に対して出席停止措置を行わない」と、対応が変更されていますが、今までと同様感染拡大防止のため「手洗い・換気」を行い、子どもの健康管理に気をつけながら、学校運営に当たってください。

また、感染の有無やマスク着用の有無によって差別や偏見、いじめ等につながるようなことがないよう、適切な配慮をお願いします。

## 新型コロナウイルス感染症 2類から5類へ

- ・感染者の行動制限なし
- ・マスク着用等は個人の判断
- ・基本的な感染症対策を  
(換気、手指衛生、咳エチケット)

2. 子どもの安全について

新学期から一か月余りが過ぎ、入学した1年生も学校生活に慣れ、行動範囲も広がり、下校後に外出する機会も多くなってきます。

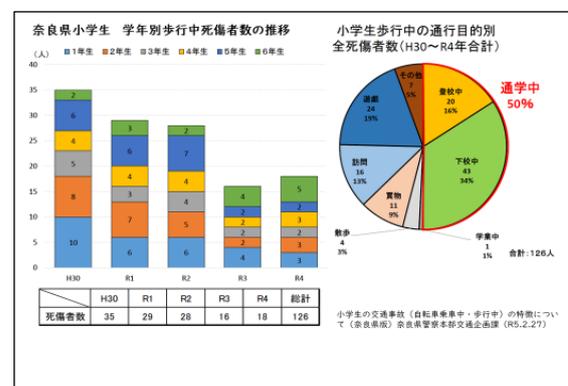
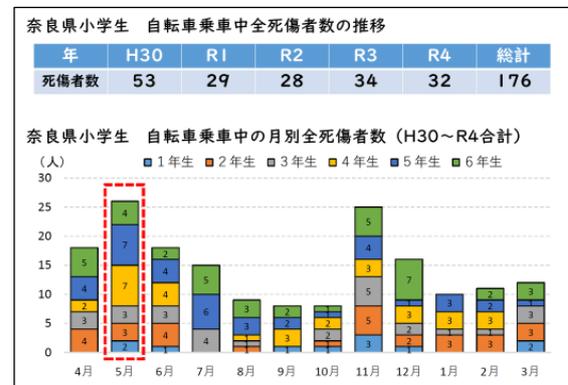
警察庁によると、5月は小学校低学年の交通事故が一番多く発生する月とされています。奈良県も、5月の自転車乗車中の交通事故が多くなっています。

4月1日より、改正道路交通法が施行され、自転車利用者のヘルメット着用が「努力義務化」されました。自転車を運転する人はもちろんのこと、同乗者もヘルメットをかぶらせるように努めることとされています。これは、児童が自転車に乗る際も例外ではありません。

自転車事故の多くが頭部に大きな損傷を受けています。自分の命を守るため、自転車に乗る際には、ヘルメットの着用を呼びかけてください。

また、過去5年間の歩行中の事故も、全体としては減っているものの、低学年だけではなく高学年の事故も増えてきています。

先週まで、春の交通安全運動が行われていましたが、学校においても、子どもだけでなく保護



者に対しても注意を促していただき、地域の見守りの方々とも連携し、子どもが事故や事件に遭遇しないように、学校・家庭・地域が一体となって子どもの安全を守る取組をお願いします。

一方、学校敷地内で子どもたちが活発に活動することが多くなり、小学校では、中休みや昼休みに運動場の遊具などで遊ぶ姿が頻繁に見られます。元気よく遊ぶことは、子どもの成長には欠かせないことですが、遊具による事故も後を絶ちません。



1月6日に、大阪府・岸和田市の公園で、「ターザンロープ」で遊んでいた小学1年の女兒が、左手の人さし指を滑車部分に挟み込み切断する事故がありました。5月2日には、埼玉県・久喜市の保育園で、遊具のロープが首にまきつき、3歳の男児が意識不明となる事故がありました。いずれも、学校でも起こりうる身近な事故だと思えます。

各学校では、こうした事故を未然に防ぐ安全管理の徹底はできていますか。昨年も話しましたが、「防災マニュアル」や「危機管理マニュアル」の定期的な見直し、教職員や保護者・地域への共通理解は進んでいますか。こうした積み重ねが、教職員の危機管理意識を高め、いざという時には適切で落ち着いた行動につながります。

この後、富雄北小学校の後藤校長から『『楓ちゃん事件』から見えてきたもの』と題して、話をしてもらいます。

平成16(2006)年11月17日、富雄北小学校に通っていた当時7才の有山楓さんの尊い命が奪われました。後藤校長は、当時、教諭として富雄北小学校に勤務され、最前線でその対応に当たられました。私も指導主事として現場に行き、毎晩遅くまで先生方そして地域の方々と、対応に当たったことを覚えています。この事件をきっかけに始まった、奈良市の登下校の見守り活動が全国に広がったことは、皆さんもご存じのとおりです。

**風化させずに、教訓とする**

---

「危機管理マニュアル」や「防災マニュアル」の  
定期的な見直しを

すべての教職員・保護者・地域で共通理解を

**子どもたちの命を守る**

⇕

**子どもたちの命を育む**

また、平成17年から、楓さんの月命日である毎月17日を「子ども安全の日」と定め、校舎や遊具等の点検を行うとともに、毎年11月に楓さんのご冥福を祈り、二度とこのような事件を起こさせないという強い決意を確認ために「子ども安全の日の集い」を開催しています。

この痛ましい事件を教訓に、富雄北小学校では、保護者・地域住民と学校が一体となって子どもたちの命を守る取組を行っています。この「思い」を風化させるのではなく、教訓として私たちは次代に伝え、つなげていかななくてはなりません。

それぞれの学校の危機管理体制や、安全に対する意識と重ねながら話を聞き、各校の安全体制を見直し、明日からの学校経営に生かしてください。